

令和８年度 第１回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議 議事録

開催日時：令和８年８月３日（月） １３時３０分から１６時３０分まで

開催場所：【現地視察】諏訪市、茅野市

【会 議】諏訪合同庁舎 502 号会議室

出席者：【構成員】（五十音順、敬称略）

雨宮 一志、片倉 正行（座長）、清水 英夫、時田 正夫、松下 妙子、宮下 佐知子

【事務局】

（諏訪地域振興局）

山口 恭子 地域振興局長、狩戸 知喜 林務課長、宮脇 優 治山林道係長

高井 恵 林務係長、河野 恵里 担当係長、伊藤 武 鳥獣対策専門員

要 旨：

【現地視察】１３時３０分から１５時３０分

視察１：信州の森林づくり事業（再造林の加速化） 諏訪市四賀

視察２：市町村森林整備支援事業（ライフライン保全） 茅野市米沢

【会 議】１５時３０分から１６時３０分



■会議事項（１）令和７年度森林づくり県民税活用事業の実績について

（事務局）

資料Ⅰにより説明（説明者：高井）

（時田構成員）

再造林の加速化ですが、今日見た所はカラマツでしたが、植樹、人工造林は何を植えるのか。また、補助ではないが、獣害対策は何かやっているのか。

（事務局）

ほとんどがカラマツです。獣害対策は一部でやっているところもあります。

（雨宮構成員）

経験上での話をすると、一時はヒノキを植えるときもあったが、ヒノキは今獣害が出ている。カラマツについてもヒノキよりは少ないが最近シカが増えており、獣害対策が必要な状況。ハケ岳の方でも国有林など、間伐を実施した後のカラマツに被害があるので、獣害対策として防護柵を張っている。県内でみても諏訪ではそういう被害が多い。

（片倉構成員（座長））

シカの密度は一時期すごかったが最近はどうなのか。

（雨宮構成員）

聞いた話では、駆除はしているが全然減ってない。

（清水構成員）

原村でも事業をやっているが、再造林について獣害対策は特にはしていない。被害がないことはないがそれほどではないという印象を持っている。原村では2ha余りを再造林していて、ペース的にはちょうどいいのか遅いのか、という感じで計画的に再造林の方は進めている。

ライフラインの関係は災害等があり、原村だけではないと思うがかなり駄目になっているので、主要幹線道路沿いの電線があるところを中心に進めている。計画にもあるように今年も予定している。

（松下構成員）

質問ですが、今日見せていただいた現場など、あれだけのことが240万円くらいで出来るのかと、住民感覚では逆に少ない気がしたが、際限なく続く整備だと思うので、今後の税收減少を見据え、どのような形で事業を継続していく方針ですか。

（事務局）

人口減になっては来ていますが、これで森林税の第4期が令和9年で完了となるので、現時点で言えるのは、その時点で見直しをして、またそのときの状況でどのように進んでいくか、内容を検討しながらやっていくことになる。

（松下構成員）

私たちににとっては大事な所なので、県でいろんな税金がある中、森林税は住民から見えにくい部分なので、何とか財源を確保できるようにこういった部分の大事さを工夫して伝えていけないかと思っています。

（事務局）

森林税についてはPRしているようで、なかなか皆さんに届いてない状況。

見えない部分が非常に多くて、どういうふうに出していくかというのは、第1期の森林税から課題となっている。パンフレットを作ったり、いろんなところで説明して工夫しながら、森林税はこういうところで使っているということを皆さんに知ってもらわなければいけないと考えている。

（宮坂構成員）

今日の現場を見て思ったのですが、再造林していく中で、山の循環というのはどのくらいのスパンでやっているのか、県民の皆さんやこの地域の皆さんも本来わかった上でやれるといいのでは。山が成長したら、それを手入れしていかなければいけない。また、カラマツを植えるにしてもその行き先が、部材として利活用され、循環するような仕組み作りや補助金が出るなど、いろんな事業者や団体が取り組めるような仕組みがもう少しできるといいと思います。

(事務局)

今おっしゃったように、植えてから次に伐るまでのスパンは、材にもよるが標準的な木は40年から45年ですが、長伐期ということで40年ではなくてももう少し長いスパンになっていく期間も今考えられている。今年植えたものが早くても40年か45年先になるという循環の中で、40年先にこの材が本当に必要とされて、伐るときにどれぐらいのお金になっているかということを考えると難しいところ。この山から切ったもののうち、建築材になっているのは多分わずかですが、循環をいろいろ考えながらいろんなところに使い、カラマツのプレミアム化を図り、チップやベニヤだけでなく、建築材も含めてうまく利用できるよう県としても考えていかなければいけないところ。

(片倉構成員(座長))

今はカラマツが割とベニヤの表面にものすごく使われていて、今の建築は壁構造がメインになっているので、信州カラマツも昔に比べれば随分と使われてきているような気がします。

それから7年度の活動事業の総額は6268万7000円ということですが、その70%近いのが防災減災のための里山整備ということで、森林税の使い道としては、まだ山を育てる方にかなり使っているというような説明を住民の方に強くしていただければと思います。

■会議事項(2) 令和8年度森林づくり県民税活用事業の実施状況について

(事務局)

資料2により説明(説明者:高井)

(雨宮構成員)

いわゆる再生林の加速化ということで、特に諏訪管内ですが平成18年の災害に始まり、災害の起きやすい地域で地元との話を進めるのは、その災害に対する不安が強い地域だということを感じていて、県の他の地区と比べるとなかなか再生林というのは非常にリスクというか、ハードルが高いところもあるのかなと感じながらやっている。

今日も再生林の現場を見て来たが結構な傾斜地で、そういった場所が諏訪管内には多く、そういう厳しいところで再生林と言ってもなかなか難しいのかなと感じている。

当組合でも県の農政林務委員の方に要望・陳情をしているが、地域に合わせたふさわしいかたちでもう少し間伐を、と感じている。

(片倉構成員(座長))

再生林というのは主伐であるので、主伐を多くやると災害が起こるという不安がある方々が多い。県としては、国の方もけども、主伐に随分重きを置いているけれど、地元としてはもっと間伐が必要というようなご意見が出ました。地域性もあり、山の状況もあるので、何分よろしくお願いたいということです。

(事務局)

平成18年度以降も何回か大きな災害があったので、他の地域と全く同じやり方ではなく、災害があった所、なかった所それぞれの地域でどういうやり方がいいのかという事を考えながら進めていかなければならないと思っている。その辺についても県の方へ諏訪地域の状況を説明しながら進めていきたいと思うので、また引き続きよろしくお願いしたい。

（片倉構成員（座長））

再造林にこだわらず、来年度から、また将来に向けて諏訪ではこうあってほしい等、そんなご発言でも結構です。

（時田構成員）

災害に合わせてですが、カラマツは直根がなくて崩れやすいですけど、なぜカラマツにこだわるのか、将来的なことを考えてない。この中に皆伐じゃなくて広葉樹を残すということが前にあったが、何も残っていない。これは何か理由があるのか。

（片倉構成員（座長））

私が林業総合センターにいた時、18 災の時に調査をしました。

林業総合センターの構内に、カラマツとスギとヒノキとコナラが、建設当時に育ち始めたのがほぼ同じ位置にあったので、信州大学の防災研究室の教員にもお願いして解析した結果、一番弱かったのはスギでカラマツは下から 2 番目でした。一番強かったのはコナラでヒノキが 2 番目でした。ただ造林・林業として見ると針葉樹の材の方が利用価値は高い。コナラは、建築関係の人はダメだっていう人が多いが、山を守る上ではコナラも非常に大事なものだと思っている。

昔は山と住宅は離れていたが今はほぼ一致しているので、木が倒れると家やライフラインがやられるなど非常に危険性が高い。自分の地区では区有林の林縁はなるべく広葉樹にしていこうという動き。どんどんカラマツを植えるのをやめて、他の木とかそういう現場での選択が非常に大事かと思っている。

（事務局）

この災害の後に長野県の中で災害に強い森林づくりをやってみましょうということで、県の方でもいろいろな人たちと検討しながら森林づくりの方を進めていますが、まだこの辺のところについては、カラマツがそのまま残っている状態です。今おっしゃったようにちょっと心配な部分は確かにありますので、今後やっていく中でカラマツを全部切るのではなく、カラマツと広葉樹と混交させながら、一緒に若返りを図ったり、強い山にしていくということも考えながらやらなければいけないと思っています。

今日の現場が良い悪いではなく、皆伐にするにしてもある程度広葉樹とか何か残せるものは山の中に残しながら、伐って植え替えていくということも考えるのは必要ではないかと。それも含めて、現地において一番安全な対策を考えながらやらなければいけないと感じている。

（松下構成員）

令和 8 年度ということではなく今後の話ですが、これだけクマが多くなってきて、軽井沢では町をあげて緩衝地帯というものを作っていて、ペンションなどに発信していると聞いています。

富士見町もクマが出る中、私のところも「やま保育」をしており、沢の近くやクマザサがいっぱいあるところにもフィールドが隣接しているので、クマがすぐそばまで来ていてもわからないというのが怖いので、ボランティアさんに斜面を刈っていただきました。下草刈りで見通しが良くなるだけでかなり安心する。ただ素人がやるには倒木も多く、刈払機では限界があると感じた。フィールド整備として、木材に関係していなくても、そういう作業に少しまわしていただくとか、専門業者の方に取り次いでいただくとか、古い倒木を除去するとか、そういう持ち主がいるけれど手入れがされないような土地に関しては、自治体の判断で少し手を入れられるような仕組みを作っていただきたい。クマ対策に森林税を使うのか、県や自治体の予算を使っていくのがいいのかわかりませんが、全国的な課題にもなって来ると思うので、一つの提案です。

（事務局）

市町村森林整備支援事業の方で、それぞれの市町村のニーズに応じた内容で対応ができる状況になっている。あとは予算次第ですが、令和８年度も実施状況の中にある「森林の若返り促進と安心・安全な里山づくり」で、主たる目的とすれば森林の育成整備ということですが、その副次的な効果として、間伐を整備する中で、見通しが良くなるという効果もある。そういった部分の副次的な効果を狙いながら、森林整備を行っていただくということも可能です。手段としてはダイレクトに緩衝帯整備の目的に下草の除去というところもありますし、それ以外の副次的な効果ということでできるなど、方法としてはいろいろありますので、市町村からの要望や各事業主体の取り組みの中で、そういったことも狙っていただくということは可能だと思います。

（片倉構成員（座長））

それは３番の枠でクマ対策の緩衝地帯を作ることを使えと、申請できる状態があるということですね。

（事務局）

それも可能です。あとは森林税以外にも活用できる財源もありますので、そういったものもいろいろ活用しながらやっていくということがいいのかなと思います。

（片倉構成員（座長））

今のクマの話ですが、去年の秋から諏訪管内でのクマの人身被害はあったのか。

（事務局）

人身被害はありません。

（松下構成員）

やま保育のフィールド整備という枠の中で、クマ対策として緩衝帯を作るという使い方は出来ますか？特化型の園は常に森の中にいるので、クマ以外の動物の対策なども考えていて、それが十分かどうかは別として、普及型の公立の園の場合はクマが出たら森の中に行かないという感覚になるので、やま保育の枠の中で使いやすいように「クマ対策」という言葉が入っていると何か自分たちで出来ることがあるのかなと思います。

（事務局）

やま保育は他部局の事業になるが、ご意見をいただいたので、県の方に伝えていきたいと思います。

やはりクマ対策については、春先からいろんなところで目撃があり、この諏訪管内でも出ていますので、その辺も含めて意見として上げていきたい。

（片倉構成員（座長））

皆さん各位からの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

第４期森林税につきましては、今後もより効果的、効率的な事業も含め、進めていただくようお願い申し上げます。